



ご使用上の注意

① カット

【切断】化粧板単体の切断は、チップソーなどの超鋼刃またはダイヤモンドソーを装着した傾斜盤、パネルソー、ランニングソー、ハンディソー、NC切断装置などを使用してください。また、ノコ刃が化粧面から裏側に抜けるように切断してください。

【木口貼り】木口貼りをを行った後の45°面取りなどは超鋼ルーター刃、またはダイヤモンドルーター刃を用い、ハンドルーター、自動面取り機、NC切断装置などを使用してください。

② 芯材

メラミン化粧板と接着する下地の芯材には合板、パーティクルボード、MDF、フラッシュを用いてください。また下地色の影響を受ける場合がありますので、明らかに色味の異なる芯材の使用はお避けください。

③ 接着

酢酸ビニル系接着剤の場合、芯材にのみローラーなどで10～12g/尺²塗布し、3～5kg/cm²の圧力で12時間以上圧縮してください。ゴム系接着剤の場合、スプレーガンを用いるか、ハケ塗りを行い、化粧板、芯材共にウェットで6～8g/尺²、ドライで3～4g/尺²塗布し、指触乾燥後、ピンチローラーなどをかけて十分に圧縮してください。接着剤の塗布ムラ、特に未塗布部分や塗布量不足の部分がないことを確認してください。

④ 反り

内部応力が芯材の強度より大きくなった場合、反りを生じることがあります。反りを防止するには、芯材を厚くする方法、あるいは芯材裏側にパッカーを貼り、バランスをとる方法があります。両面に同じ化粧板を接着することで、さらにバランスは良くなります。

⑤ ふくれ

局部的に接着力の弱い部分があると、(高湿度下で)そこに応力が集中し、ふくれを生じる場合があります。ふくれを防止するには、接着剤を均一に塗布して十分に圧縮し、接着力が全面に十分な強度が出るようにしてください。

⑥ 継目のもり上り、すき間

継ぎ合わせのある場合、接着力が充分でないと、高湿度下で化粧板が伸びてもり上がりを生じたり、低湿度下で化粧板が縮んですき間を生じたりすることがあります。この場合は強力な接着剤を使用するか、継目部分端部を面取りして目立ちにくくすることができます。

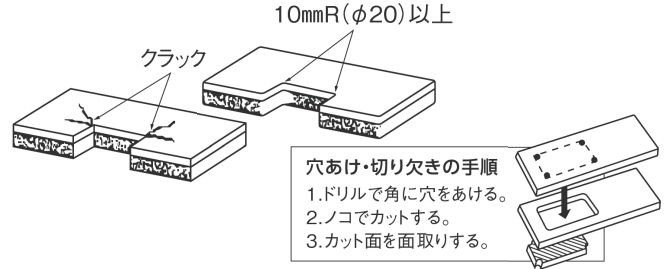
※バイオマープル、バイオマープルカウンター、パニートカウンターの注意事項についてはカスタマーセンターまでお問い合わせください。

⑦ クラック

角のとがった切り欠きや穴あけ加工があると、低湿度下で化粧板が縮もうとして内部応力が生じ、角のとがった部分に応力が集中してクラックを生じさせる場合があります。防止するには、角の部分に10mmRの丸みをつけてください。

⑧ コーナーのR

切り欠き加工部は電動ドリル、ホールソーを用い、必ず10mmR以上のRをつけ、さらにペーパーなどでハマカケなどがないようにしてください。コーナーRが極めて小さいと、はがれ・浮き・クラックが発生しやすくなります。



⑨ 摩耗

V艶・G艶仕上げ製品は、超マットな質感や高度の光沢を再現しているため、トレイや皿などの硬質なものが高頻に擦れるような箇所でご使用されると艶が変わるおそれがあります。V艶は特に光沢度の変化が分かりやすいため、摩耗頻度の高いテーブルトップなどへのご使用はお避けください。

⑩ その他

化粧板と芯材を貼り合わせてから①「カット」で記載した刃物を用いて正寸に切断してください。事前に切り欠き加工を行った化粧板と芯材を貼り合わせるはおやめください。マスキング加工してある場合は、局部的に圧力がかかると糊残りが起こる可能性がありますので、加工途中や完成品を積み重ねる場合は、製品の上に直置きや局所パットなどではなく全体的に圧力が分散するミラーマットなどを全面に敷いてください。また、0℃未満の低温でマスキングをはがすと凝集破壊により糊残りの原因となりますので0℃以上ではがしてください。DLS品種の製品は、パールの意匠性を上げるため耐摩耗性能を抑えており、垂直面仕様の設計になっているため、水平面へのご使用はお避けください。



安全にご使用いただくために

本製品を安全にご使用いただくために、次の点にご注意ください。

- ①運搬・取扱いの際には、保護手袋を着用してください。
- ②加工時には、保護メガネ・防塵マスクを着けて作業してください。
- ③粉塵は可燃性ですので、加工時には金属の粉塵と区別して粉塵爆発対策を行ってください。
- ④荷扱いのご注意



直射日光遮蔽



水ぬれ防止



取扱注意



保管時と廃棄時の注意

保管時は、地面やコンクリート面へ直接置くのは避けて、パレット上で管理し、風雨及び直射日光の当たらない場所で保管してください。反り防止のため、製品より大きいサイズの合板、ベニヤ、ダンボールなどで挟み、その内側に吸湿性のないプラスチックシートなどを敷き、製品にダンボールなどが直接接触ないようにして保管し、製品をむき出しの状態にならないようにしてください。廃棄時は、リサイクル業者もしくは、産業廃棄物業者で処分を行ってください。



お手入れ方法

表面の汚れは、柔らかい布で拭き取ってください。容易に拭き取れない場合は、家庭用中性洗剤を柔らかい布かスポンジに含ませ拭き取り、水拭きし、後に乾いた布で水分をきれいに拭き取ってください。油性の汚れは、アルコールやガラスクリーナーを柔らかい布に含ませ拭き取るか、市販のメラミンスポンジを使用して拭き取る事をお勧めいたします。

※製品表面にキズが付いた箇所へ付着した汚れは取れない事がありますので予めご了承ください。

【応急処置】

- 粉塵が皮膚に付着したり、目、鼻、口に入った場合は、水で洗い流してください。異常を感じたら速やかに医師の手当を受けてください。
- 火災の時は、水、霧、泡、化学消火剤で消火してください。